



「名村テクニカルレビュー」

第19号発刊に際して

取締役 執行役員 **池邊 吉博**

名村グループの中核事業である新造船事業は、ドライバルク市況の歴史的な低迷により受注が枯渇し、中国・韓国における主力造船所のリストラや救済合併の動きもあって、国内外での熾烈な生存競争に晒されています。これに英国の欧州連合（EU）からの離脱決定を契機とする急速な円高が加わり、先行きの不透明感はますます高まっています。そのような厳しい経済環境の中にあっても、我々は積み上げてきた財務基盤をフルに生かし、これまで進めてきた統合効果の向上を目指した取り組みをさらに加速することで競争力を強化し、世界的な造船所淘汰の冬の時代を勝ち残っていかねばなりません。

競争力強化のために必要なことは、メーカーの原点である「より良いものをより安く」に立ち返ることであり、それは顧客が求めている商品を適時的確に提供する為の「企画開発力」「生産技術力」および「コスト競争力」を日々磨き、顧客満足度の向上に努めることに他なりません。

個人がベストを尽くして様々な課題に取り組んで見出した「解決策」を、組織にフィードバックするといった地道な研究開発、技術力向上活動の積み重ねが、競争力の向上に繋がるものと考えます。

個人の取り組みが組織全体の取り組みへと昇華するために大切なことは「チームワーク」です。一人では解決が難しい、あるいは時間がかかる問題も、職場の上司や同僚と相談し、議論を重ねる中でより良い解決策がきっと見つかるでしょう。この「チームワーク」をグループ全体へ展開することが、チーム名村の競争力強化へと繋がっていきます。

本号には、グループ内において様々な課題への個人としての取組みと、「チームワーク」を発揮することで達成できた取り組みが紹介されています。こうした日々の活動の蓄積が、競争力強化の礎になります。

「より良いもの」を作ることも「より安く」作ることも、メーカーにとっては等しく大切であり、どちらか一方だけに偏ることはできません。メーカーとしての良心が、必ず整合性を導き出ししてくれるものと信じています。

最後になりましたが、弊社グループのさらなる成長のため、本誌を読まれた多くの方々からの忌憚のないご意見、ご講評をいただければ幸甚です。

今後ともより一層のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。